

# IT資産の全体最適を可能にするITアーキテクチャーの標準化

野村総合研究所 増永容啓

今日、IT資産が企業内のあちこちに分散してしまい、全社的な有効利用が困難になってきている。IT資産を有効に活用し、そこから最大限の効果を得るには、IT戦略に基づいてシステム関連部門の意識を統一し、とくにシステムの根幹を成すシステム基盤を整備することが重要である。本稿では、そのために不可欠なITアーキテクチャーの標準化について提言する。

## IT資産の分散による弊害

近年、システム部門においては、構築期間の短縮やシステムコストの大幅削減といった厳しい要求を突きつけられ、同時に急速なITの革新や氾濫する新技術のキャッチアップに追い回されている。眼前のタスクをこなすのに精一杯で、自分のやっていることが全社のIT戦略に則しているかを確認している余裕はない。システム部門は、各業務ごとに最適なシステムを構築すること、すなわち部分最適に主眼を置かざるを得なくなる。まして、他のプロジェクトやシステム構築部署と意見交換をして、互いにシステム構築の効率化を図ることなど望むべくもない。隣の人は何をやっているのか、どんな技術をもっているのか知らないことさえある。その上、社内標準がないために、あるプロジェクトは何でもVB（プログラム言語のひとつ）で開発、別のプロジェクトは何でもJava（プログラム言語のひとつ）で開発といった具合に、自分たちの得意な技術をバラバラに採用することも多い。

こうしたことが続くと、知的資産（スキルやノウハウ）やシステム資産（ソフトウェア、

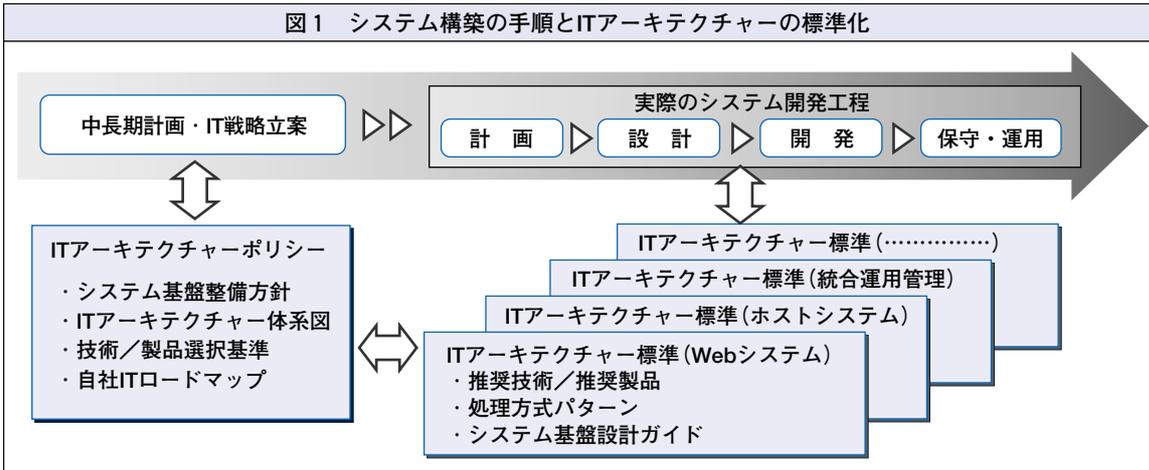
ハードウェア）が、個人やプロジェクト単位に分散してしまい、かつそのなかで閉じてしまうことになる。その結果、蓄積された技術やノウハウを全社的に有効活用することは困難となり、全社的にみるとかえってコスト高になってしまうといった事態も発生し得るのである。

## 全体最適のためには指針が必要

貴重なIT資産を全社的に有効活用していくためにシステム部門が目指すべきものは部分最適ではなく、企業内のIT資産をさまざまなシステムで無駄なく有効に利用し、各システムが共鳴しあう1つのシステム群を構築すること、すなわち全体最適である。

全体最適のためには、まず社内に散在するIT資産を一定の指針に基づいて整理する必要がある。その指針がIT戦略であり、それに基づいてIT資産を整理していく作業がITアーキテクチャーの標準化である。システム全体のなかでも基盤部分はシステムの根幹であり、システムが円滑に稼動するかどうかは基盤部分にかかっている。また、業務アプリケーション部分に比べて汎用性が高く（共用できる部分が多く）、標準化による効果が大き

図1 システム構築の手順とITアーキテクチャーの標準化



きいこともあげられる。そこで「ITアーキテクチャーの標準化」＝「システム基盤の標準化」ととらえることができる。

### ITアーキテクチャーの標準とは

ITアーキテクチャーの標準は次のように2つに分けられる。

#### ITアーキテクチャーポリシー

IT企画部門がシステム基盤整備方針を検討するための基準であり、自社のIT戦略や中長期システム計画におけるシステム基盤に関する全体方針を可視化したものである。これにより、IT企画部門のみならずシステム関連部門の基盤整備方針に対する意識の統一を図ることができる。

#### ITアーキテクチャー標準

システム構築部門が実際にシステムを構築するための基準で、システムを構築するために使用する製品や技術（WindowsやOracleのような具体的な製品、UNIXやRDBMSの

ような技術）、処理方式、システム基盤設計の基準をまとめたものである。設計者や開発者がシステム構築の際に利用することにより、全社的なシステム基盤の統一を図ることができる。

ITアーキテクチャー標準はさらに2つに分けられる。1つは、全社共通データ連携基盤や全社統合運用管理基盤のように、全社共通で利用する“共通システム基盤”ごとに定める利用基準であり、もう1つはWebシステムやホストシステムといった“システムタイプ”ごとに定める設計基準である。

企業内に分散したIT資産を有効に活用し、その効果を最大限に発揮させるためには、システム関連部門の意識統一を図るITアーキテクチャーポリシーと、システム基盤の統一を図るITアーキテクチャー標準の2つから成る「ITアーキテクチャーの標準化」が不可欠である。